

科目名称	教育とコミュニケーション	学年学期	単位数	時間数
		1年後期		15
担当教員	小林 忠資	授業に関わる実務経験	<input type="checkbox"/> 有 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	

## 【1】 授業概要

社会を維持する基盤となるのは、教育とコミュニケーションです。教育とコミュニケーションをとおして、人はさまざまな知識や技術を伝えたり、産み出しています。本授業では、社会の中で生活していくうえで不可欠な行為である教育とコミュニケーションについてについて学習します。教育とコミュニケーションのスキルは、看護師として働くうえでも求められるものです。

## 【2】 学習目標

1. 相手の発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。
2. 学習の原理にもとづいて指導を設計することができる。
3. 指導において、導入・展開・まとめを活用することができる。
4. 学習意欲を高める工夫を組み込むことができる。
5. コーチングの技法を活用することができる。

## 【3】 ディプロマポリシーとの関連性

- I. 人に関心を持ち多様な人間を理解する力
  - 1. 人間を生活者として捉えることができる。
  - 2. 人間の生命、尊厳及び権利を尊重し、多様な価値観をもつ人間を理解することができる。
- II. 看護を実践する力
  - 1. 対象の健康状態の変化に気づくことができる。
  - 2. 安全に科学的根拠に基づいた看護援助を実践できる。
  - 3. 様々な場で生活する人々を支援するための援助を考えることができる。
- III. 人間関係を構築する力
  - 1. 対象とより良い人間関係を築くことができる。
  - 2. 多職種と連携・協働するための人間関係を築くことができる。
- IV. 主体的に学び続ける力
  - 1. 自己の資質向上のために学び続ける必要性を理解できる。
  - 2. 自己の看護観をもちキャリアデザインを描くことができる。

## 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	オリエンテーション	講義・演習
2	人の発達を理解する	講義・演習
3	学習の原理を理解する	講義・演習
4	指導の基本を理解する(1)	講義・演習
5	指導の基本を理解する(2)	講義・演習
6	学習意欲を高める技法	講義・演習
7	コミュニケーションの技法	講義・演習
8	試験	筆記試験

## 【5】 評価方法

1. 授業への参加度 30%、筆記試験 70%
- 2.

## 【6】 教科書

中井俊樹・小林忠資編 『看護のための教育学』 第2版 医学書院 2023

## 【7】 参考書

## 【8】 受講生へのメッセージ